

Ⅲ 成果と課題

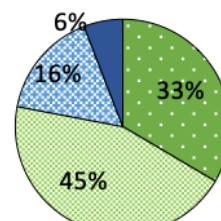
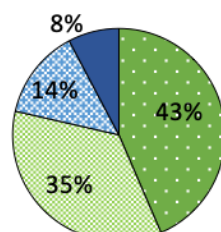
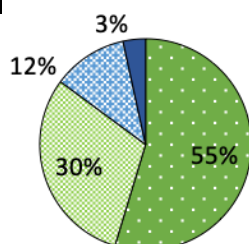
Ⅰ. 仮説の検証

ア ねらいとする資質・能力を育成することができたか。

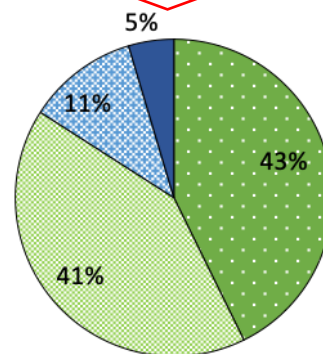
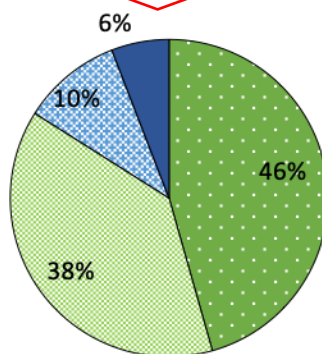
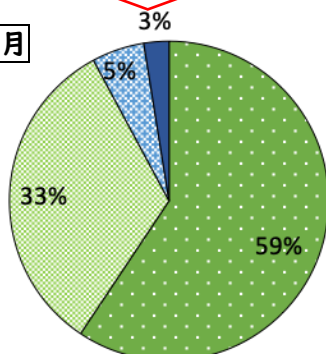
(Ⅰ) 外国語活動・外国語科

外国語の学習では、相手が伝えたいことを分かってほしい。外国語の学習では、自分のことや自分の気持ちを英語で話している。外国語の学習では、相手の好みや状況に応じて話をしたり、質問をしたりする等、よりよくやり取りをしようとしている。

6月



12月



■とてもそう思う □そう思う ■あまり思わない ■思わない

【図1】ねらいとする資質・能力に係る外国語活動・科児童意識調査結果の比較

	研究授業実施単元		12月時点の学級平均正答率	
	知識・技能	思考・判断・表現	知識・技能	思考・判断・表現
4学年	98%	98%	91.3%	85.4%
5学年	100%	97%		
6学年	100%	99%		

【表1】抽出単元及び12月までの外国語単元末テスト結果

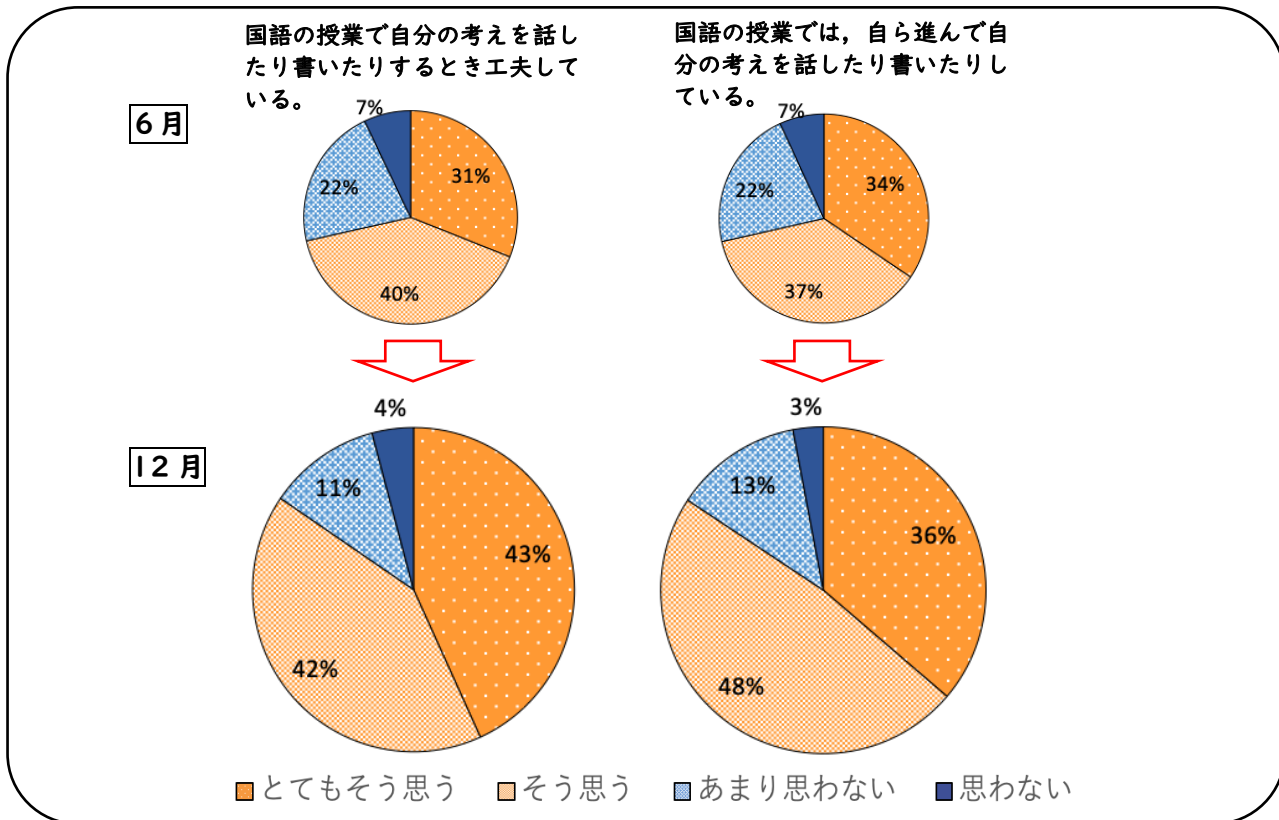
○「話すこと」に関する児童意識調査の結果、84%の児童が肯定的な回答をした。目標としていた85%にはわずかに届かなかったが、概ね達成された。

○「聞くこと」も含め、ねらいとする資質・能力については、年度当初よりも数値の向上が見られた。

○また、「思考力・判断力・表現力等」についての評価についても、表1のように全ての学年で目標である90%を達成することができた。

●児童意識調査の結果、「聞くこと」に比べ、「話すこと」の数値が低く、今後も表現することについての自信を高め、一人一人が表現することに対して肯定的になれるよう、指導を充実させていく必要がある。

(2) 国語科



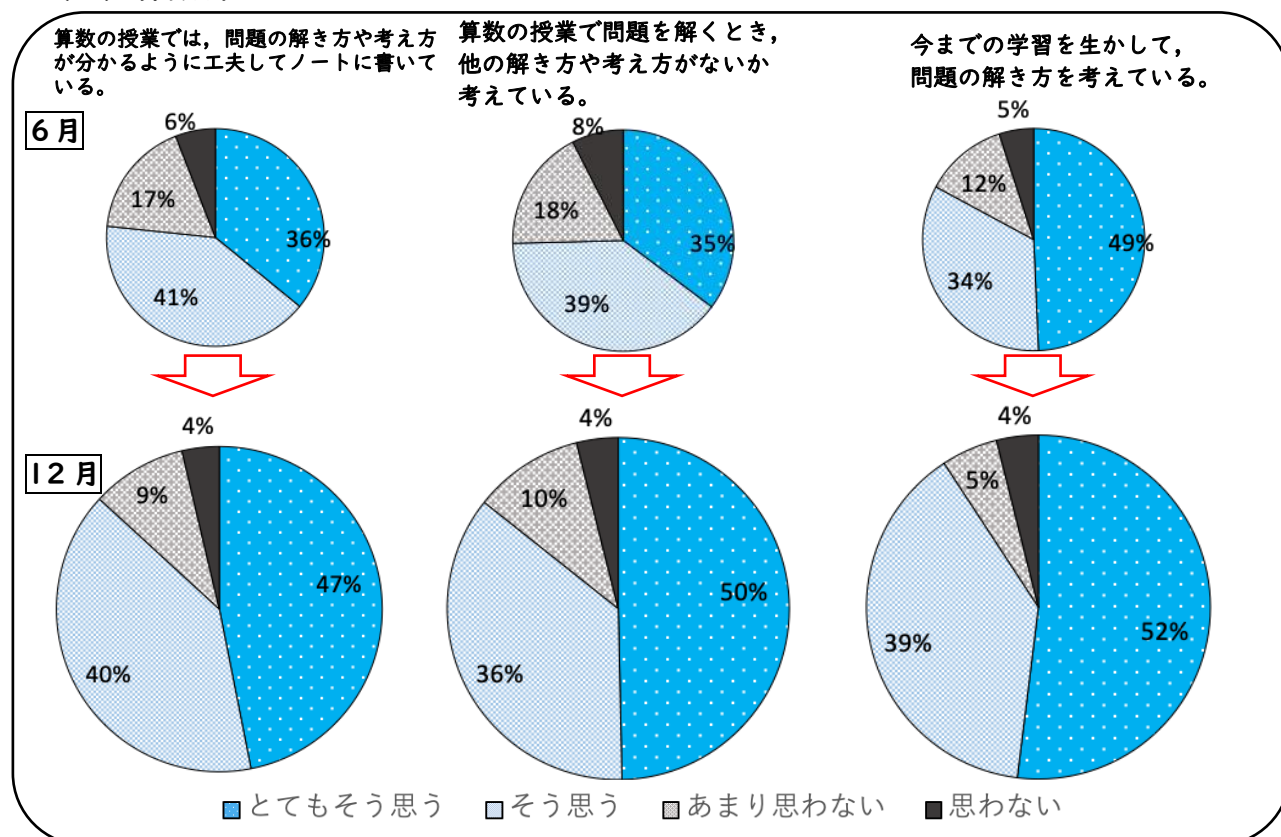
【図2】ねらいとする資質・能力に係る国語科児童意識調査結果の比較

	研究授業実施単元		12月時点の学級平均正答率	
	知識・技能	思考・判断・表現	知識・技能	思考・判断・表現
1学年	100%	100%	84.4%	83.9%
	79%	86%	87.4%	84.2%
2学年	80%	80%	84.6%	80.1%

【表2】抽出単元及び12月までの国語科単元末テスト結果

- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」に関する児童意識調査の結果、約85%程度の児童が肯定的な回答をした。否定的な回答の割合が減ったことは大きな成果である。
- 外国語科・外国語活動と同様に、映像を教材科したり、具体的なゴールイメージを共有したりすることで、表現することへの意欲が高まり、学んだことを活用して工夫しようとする姿が引き出された。
- 15%の児童については、話すことや書くことに抵抗感があり、単元末テスト等においても課題が見られる。課題の大きい児童は、語彙力や基礎的な知識・技能に課題がある。型を示したり、個別の支援を充実させたりすることで表現力を高めていく必要がある。

(3) 算数科



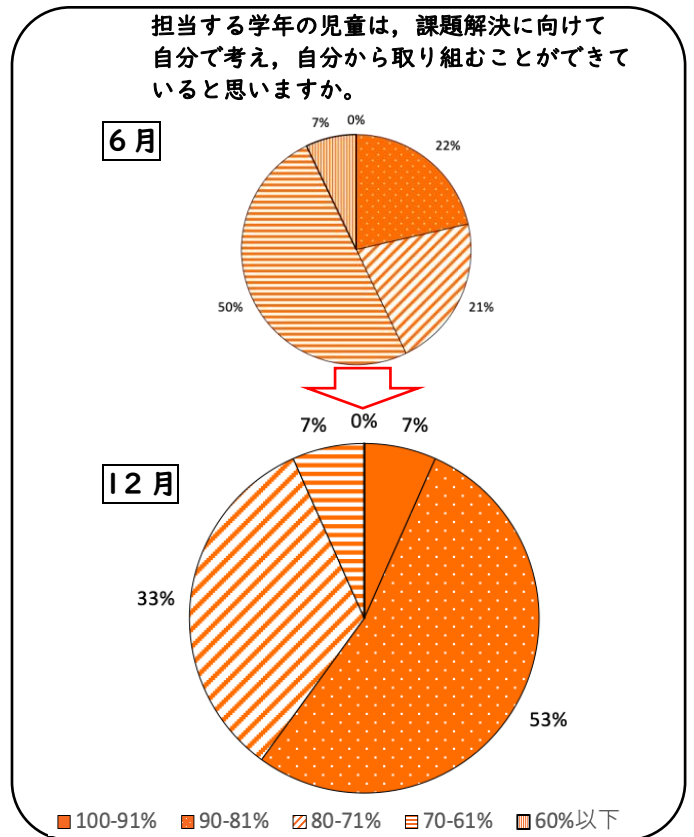
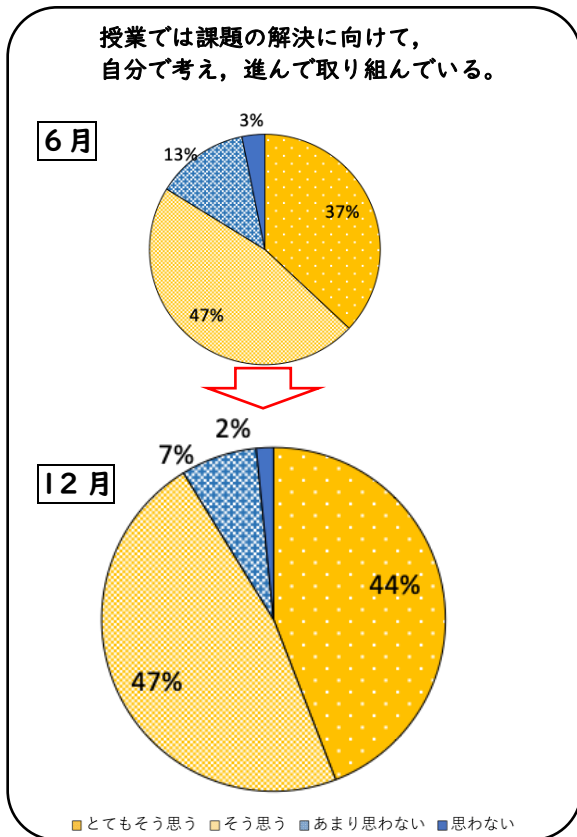
【図3】ねらいとする資質・能力に係る算数科児童意識調査結果の比較

	研究授業実施単元		12月時点の学級平均正答率	
	知識・技能	思考・判断・表現	知識・技能	思考・判断・表現
2学年	88%	74%	90%	82%
	100%	95%	90%	83%
3学年	92%	76%	88.1%	70.7%
4学年	93%	80%	87.6%	77.3%
5学年	94%	66%	85.8%	75.6%
6学年	100%	86%	85.8%	75.6%

【表3】抽出単元及び12月までの算数科単元末テスト結果

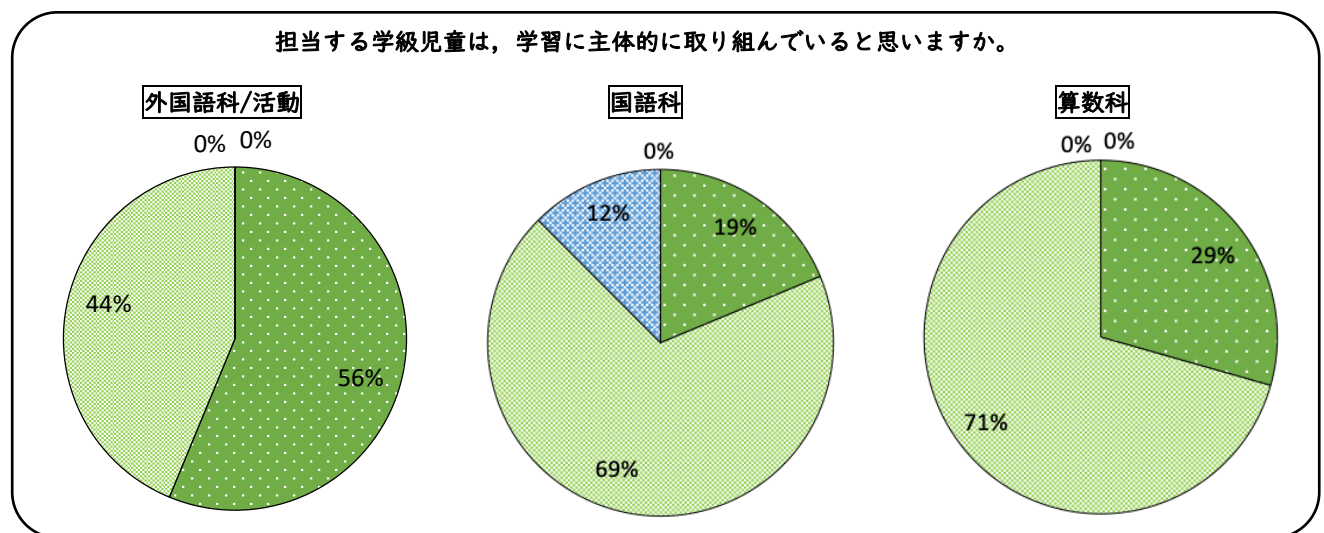
- 児童意識調査の結果、表現に関する質問項目全てにおいて数値の向上が見られた。
- ICT機器を活用して児童のノートを相互に評価させたり、書き方や説明の仕方を指導したりすることで、既習事項を活用して表現したり多様な考え方を試行錯誤したりする態度が引き出された。
- 説明することについては、基礎的・基本的な知識・技能につまずきのある児童については、表現力を高めることが難しかった。少人数指導や個別の支援の充実が必要である。

イ 児童の主体的な学びを創造することができたか。



【図4】主体的な学びに係る児童意識調査結果の比較

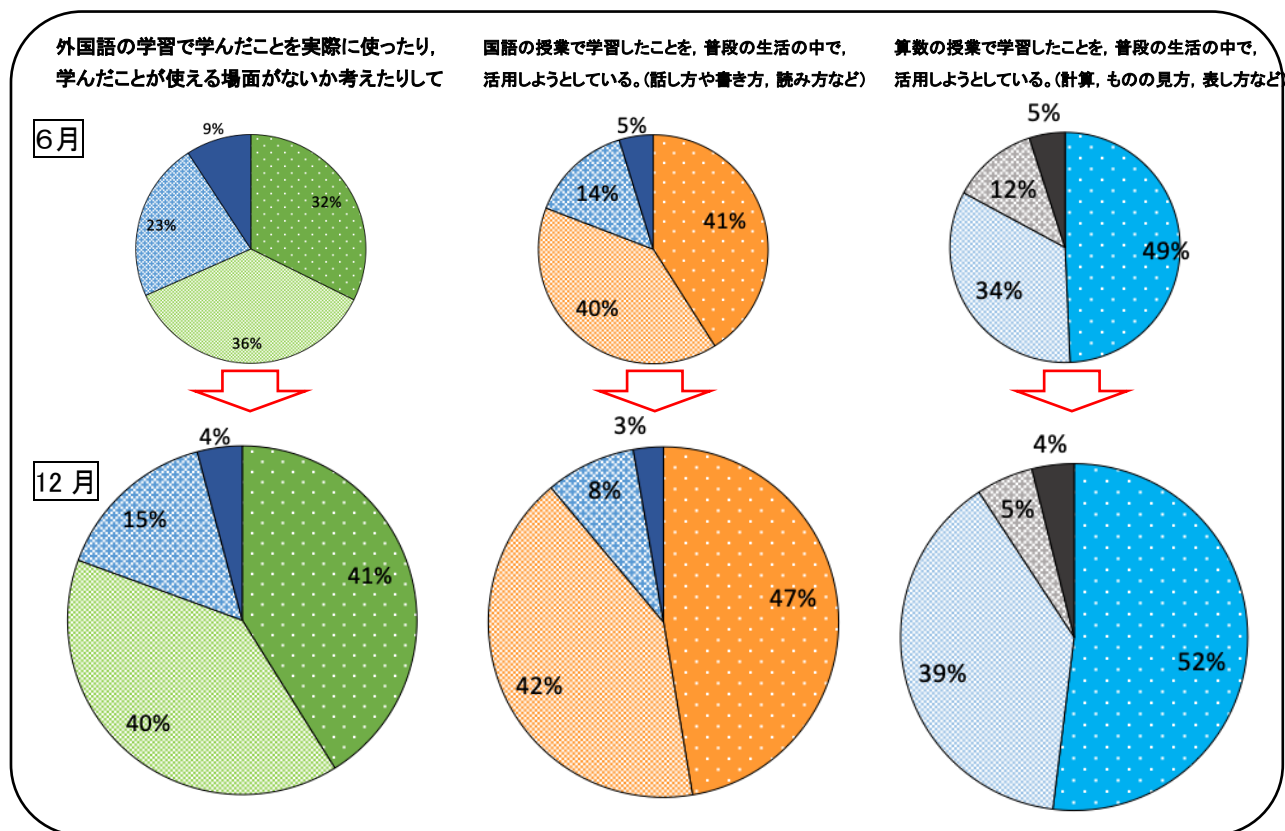
【図5】主体的な学びに係る教員意識調査結果の比較



【図6】各教科等での主体的な学びに係る教員意識調査結果の比較

- 児童意識調査（図4），教員意識調査（図5）ともに，肯定的な回答が増加した。ICT 機器の活用や校内研修を通して，主体的に学ぶとはどのような姿なのか共有され，高めることができた。
- 動画等，視覚的な教材が充実したことで，話し方や書き方，説明の仕方を具体的に指導することができたことで，主体的な児童の姿が引き出された。

●教員意識調査（図6）の結果から、国語科については児童の主体性に課題を感じている教員がいることが明らかになった。国語科の児童意識調査（図2）では、85%の児童が表現を工夫し、自ら進んで話したり書いたりしていると回答しているが、教員の評価との差が見られた。

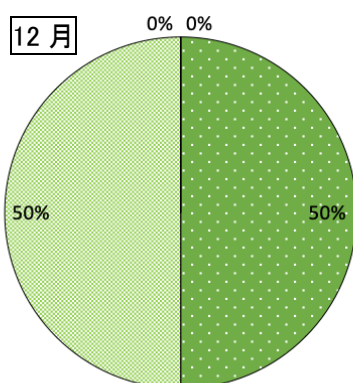
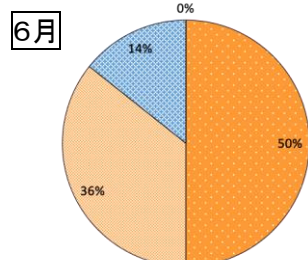


【図7】各教科等における生活への活用に係る児童意識調査結果の比較

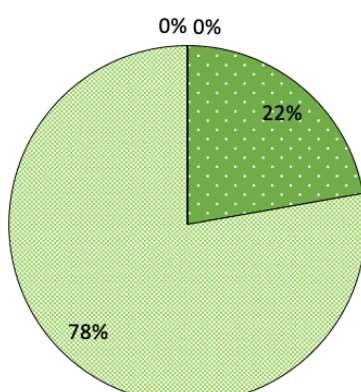
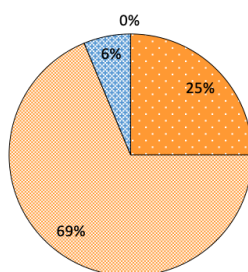
- 生活に生かすという質問項目について、3教科とも肯定的な回答の割合が増加した。資質・能力の育成の類型と段階において、「課題解決体験」の積み重ねによって学んだことの「日常化・恒常化」が図られつつあると考える。
- ICT 機器の活用の中でも、視聴覚的な教材が増加したり、児童の生活に応じた教材が開発されたりすることで、生活に生かそうとする態度が高まったと考える。
- 国語科、算数科に比べ、外国語活動・外国語科については、肯定的な回答の割合が低い。外国語を日常的に使用する実感をもたせることは他の教科に比べて難しい。ALT との関わりを増やしたり、背景にある文化への気付きを促したりする指導が必要である。

ウ 児童の対話的な学びを創造することができたか。

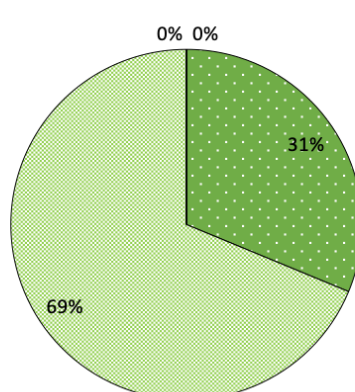
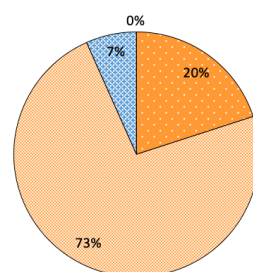
授業において、児童に相互評価をさせたり、指導に繋げるために全体の中で児童を評価したりしていますか。



思考力・判断力・表現力の育成のために、言語活動を手段として取り入れていますか。

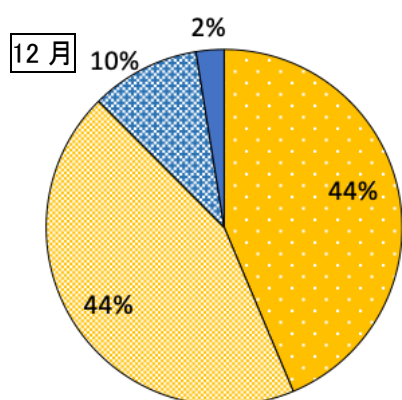
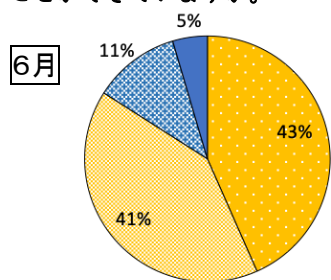


授業において、話し合いの場を意図的に設ける等、児童一人一人が表現するための工夫をしていますか。



【図8】対話的な学びに係る教員意識調査結果の比較

学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。

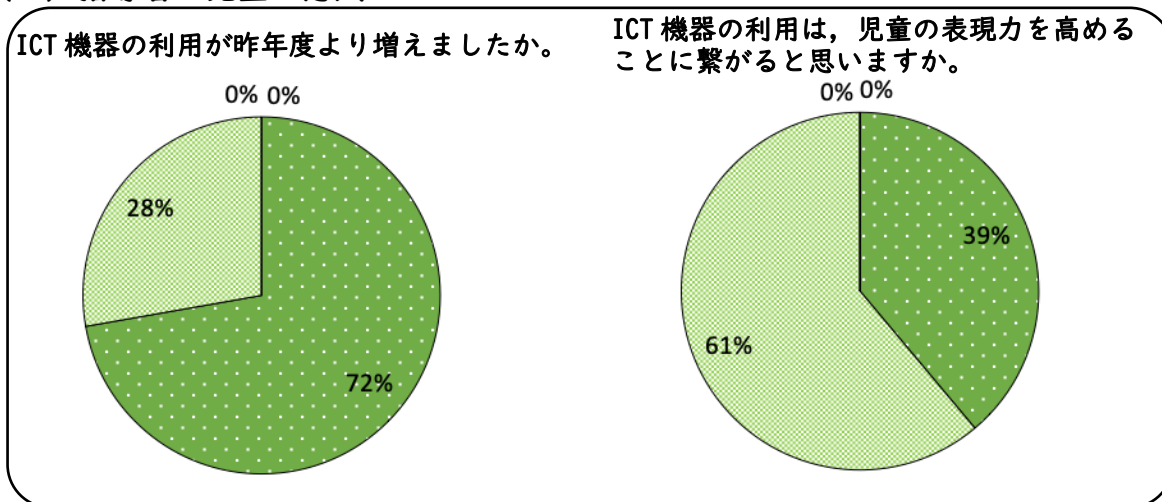


【図9】対話的な学びに係る児童意識調査結果の比較

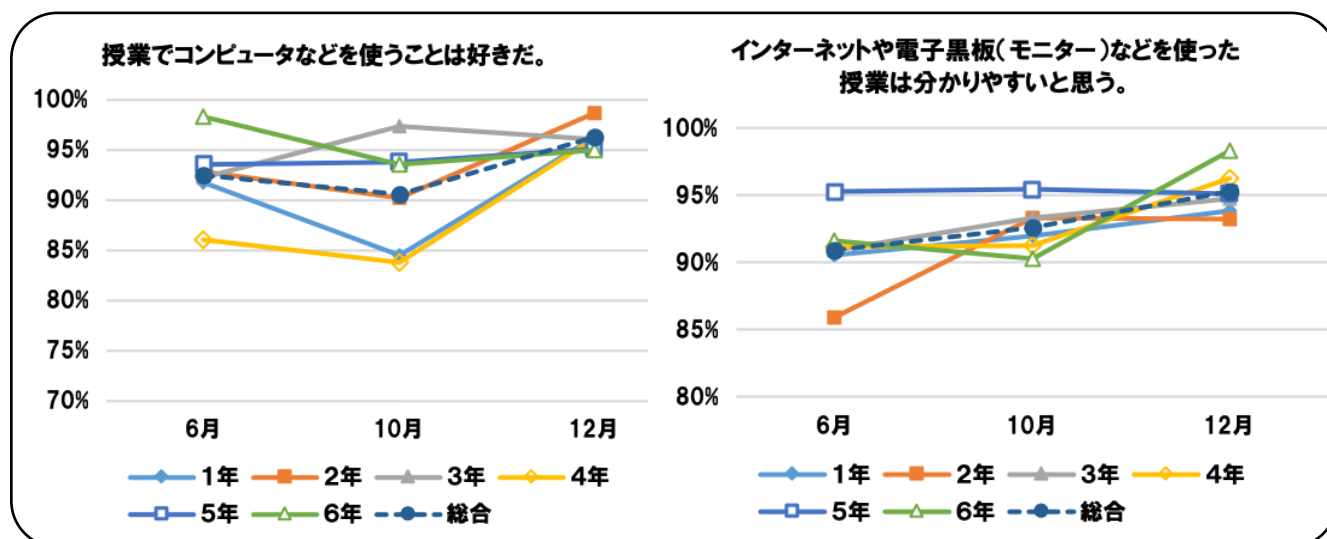
- 対話的な学びに関しては、教員意識調査の結果から、指導の改善が図られたと考える。特に、集団解決の前に、個別に思考する時間を確保したり、「書く」「話す」「説明する」活動において、収束的・拡散的な思考が必要な場を設定したりすることで意図的な指導を仕組むことができた。
- 外国語活動・外国語科で積み重ねてきた中間評価によって、児童の表現の質を高めるという指導が他教科にも拡張され、指導の改善につながった。
- 児童意識調査の結果、90%程度の高い割合を保っているが、年間を通してあまり大きな変化が見られなかった。話し合う目的が10%程度の児童には共有されず、話し合うことの効果について肯定的に評価できなかった。他者の考えと自分の考えを比較させたり、自分にはないものを取り入れたりさせる指導を充実させていかななくてはならない。

2. ICT 機器の活用について

(1) 指導者と児童の意識



【図 10】 ICT 機器の活用に係る教員意識調査結果の比較



【図 11】 ICT 機器の活用に係る学年別児童意識調査結果の比較

- 教員意識調査から、どの学級でも昨年度と比べ、ICT 機器の活用を積極的に行い、教材開発が行われたと言える。また、ICT 機器の活用が、表現力を高めることに繋がるという有用性についても、全教員が感じている。
- 児童アンケートから、ICT 機器の活用が進んだことが、児童の活用意欲をさらに高めたと言える。このことは、表現に関する意欲を高めたことにもつながっている。さらに、インターネットや電子黒板（モニター）視聴覚教材が増加したことは、児童にとって分かりやすい授業に繋がっていると言える。
- 使用が増えた当初、全体的に「授業でコンピュータを使うことが好きだ」と回答した児童の割合が落ち込んでいる。コンピュータの活用が無条件に児童の意欲を高めるわけではなく、指導者の慣れや児童が活用を有用なものだと感じられる活用方法になっているかを検討し続けることが大切である。

(2) 本年度の活用実践

本年度、本校における ICT 機器の活用について、学習場面ごとにここにまとめる。

A 一斉学習

A1 教師による教材の提示

①導入における課題提示



【図 12】国語科「話すこと・聞くこと」の授業における教材の提示

どの学習においても、活用されたのが、導入における教材提示である。大きく見せて分かりやすくさせたり、動きを伴って見せることができるため、導入で問題場면을正確に把握させたり、意欲を高め、課題意識をもたせたりすることに効果的だった。また、静止画だけでなく、動画で示すことでも、効果を高めることができた。

②展開における相互評価



本校の授業研究では、展開場面で児童の思考や表現の質を高めるために中間評価を行ってきた。動画や静止画を見せ、相互評価させたり、教師による見本を提示したりすることで、児童一人一人の学びを全体での学びに繋げ、主体的に表現を高める活動に繋げることができた。特に「話すこと」は形として手元に残らないため、動画等で残して活用することは大変有効であった。

【図 13】外国語活動における中間相互評価の様子

③展開における思考の深化



【図 14】国語科デジタル教材活用の様子

展開の場面で、新たに教材を提示し、思考の深化を促す際にも ICT 機器の活用が効果的だった。とくに、デジタル教科書には視聴覚教材が豊富にあり、効果的に活用することで児童の思考が深まり、表現力の高まりにつながった。文字からだけでは読み取れない情報や他者の考え方・表現の仕方を知ることによって、思考を深めることができた。

B1 個に応じた学習



【図 15】外国語科における個別発音練習の様子

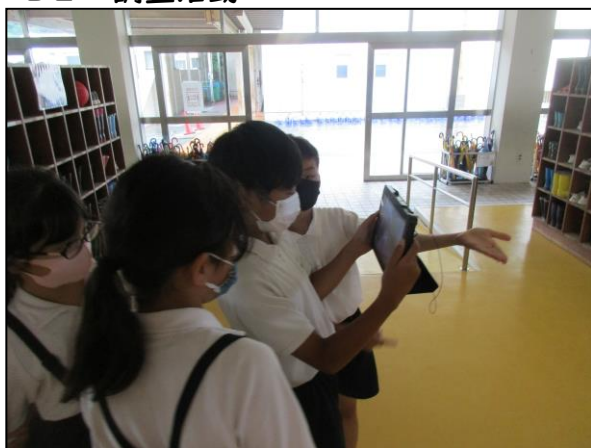


【図 16】算数科における動画によるコンパスの使い方の個別支援の様子



【図 17】算数科におけるパソコンソフト活用の様子

B2 調査活動



【図 18】算数科において身近な図形を探す児童の様子

個に応じた指導として、パワーポイント、動画、電卓機能などの活用があった。個の課題に対して有効な支援であった。個々のつまずきを支援することによって、本時のねらいにより迫ることができる。また、いつでも、何度でも活用できるものにするこで、自主的に学習する態度が引き出されたり、学習方法や学習機会を自分で選択したりする姿が引き出された。

インターネット、カメラ機能を活用した調査活動が行われた。算数科において、身近な図形や問題場面を見つけて画像を収集して学級で発表したり、外国語において、身近なアルファベットを調べたりする際に活用された。学びの「日常化・恒常化」に繋げるために大変有効である。

B3 思考を深める学習



【図 19】算数科におけるデジタル教科書の個別活用の様子

5 学年 2 組算数科の研究授業において、図形の面積の求め方を考える際に、デジタル教科書を活用した。美しい直線で図形を切って移動させたり、同じ形をコピーして反転させたりする等の作業が繰り返していき、児童の思考を深めるために非常に効果的であった。形とて残らないため、書く活動と組み合わせた実践が行われた。思考したことを他者に分かりやすく書いて残すという指導が大切である。

B4 表現・制作



【図 20】外国語科におけるビデオレター作成の様子

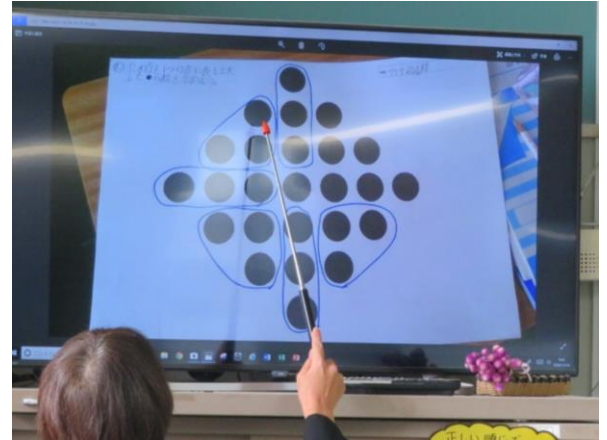
今年度は、人との接触が大きく制限されたこともあり、外国語科においてはビデオレターの制作が行われた。遠隔地にいる人とのコミュニケーションに繋がるだけでなく、自身の表現を繰り返し再生して改善したり、他者の表現を共有したりする活動にも繋げることができた。

C 協働学習

C1 発表や話し合い



【図 21】算数科における STUDY NOTE を活用した考えの交流の様子



【図 22】算数科における児童の書き込みを拡大した考えの交流の様子

発表や話し合いの際には、児童の考えを写真撮影したものを活用したり、「STUDY NOTE ライト版」を活用したりした。全体場でさらに、書き込みを行ったり、出された考えを分類して視覚的に示したりすることが可能であり、収束的・拡散的な話し合いの場を作る際に、とても有効であった。

C3 協働制作



【図 23】国語科におけるプレゼンテーションの様子

国語科・外国語科において、プレゼンテーションなどの発表資料を作成する際に活用した。パワーポイント、インターネットを児童に使用させ、発表資料を作成した。グループ内で分担して作成した資料を互いに見ながら、どのような資料を作成すればよりよく伝わるか検討させた。資料と話す内容との関係や、資料の種類ごとの特徴についても考えさせることができた。

また、google drive, google ドキュメントの共同編集機能を活用した、チャットに

よる話し合いも行った。コロナ禍における話し合いの新たな形として、文字による話し合いを行ったことで、話し合いが文字化されて残ること、グループによる話し合いにも指導者の切り返し発問が適宜行えたこと、普段話し合いに苦手意識を持っている児童や特別支援学級の児童の話し合いへの参加が促されたこと等、多くの成果があった。一方で、文字入力の技能の差が話し合いの量や質の差を生んでしまうことが課題となった。

C4 学校の壁を越えた学習



【図 24】 ALT の家族に向けて作成したビデオレター



【図 25】 北海道北広島市とのオンライン交流の様子

学校の壁を越えた学習として、外国語科における ALT とその家族、大阪府と神戸市の小学校とのビデオレターの交流を行った。特に、言葉の学習については、その有用性を実感して初めて表現への意欲が高まる。本校の研究においても、「言葉の生活化」というキーワードとともに研究を進めてきた、最も重要な目的・場面・状況設定である。本年度、コミュニケーションが難しい中であっても、ICT 機器を活用することで円滑にコミュニケーションを図ることができたことは、児童に言葉を使う楽しさを実感させるためには大変有効な手立てとなった。

また、国語科・総合的な学習の時間で、北海道北広島市との「ZOOM」を活用したオンライン交流を行った。歴史や街・学校の紹介を、その場で顔を見ながらし合うことで話したり、聞いたりする意欲が高まり、よりよい表現に繋がった。

その他の活用

本校においては、Google Meet 活用してオンライン朝会や、読書ボランティア「本の森」による読み聞かせを行った。また、運動会における観戦が制限されたため、オンラインによる運動会の競技観戦も行った。



【図 27】 全校オンライン朝会の様子



【図 28】 オンラインでの本の読み聞かせの様子

3. まとめ

- どの教科においても本年度の研修により，ICT 機器の活用機会が増加し，児童にとって分かりやすく，興味関心を高める授業改善が進められた。多様な活用の方が分かり，それぞれの良さや課題について明確になった。
 - カメラ機能やデジタル教科書等の視聴覚教材が増えたことで，付けたい資質・能力が明確になり，児童の表現を高める指導に繋がった。
 - パソコンのソフトウェアや視聴覚教材によって，基礎的・基本的な知識・技能につまずきのある児童への支援が行われ，児童一人一人が主体的に考え，進んで表現する姿を引き出すことができた。
 - コミュニケーションが制限され，発表ややり取りが難しい状況においても ICT 機器を活用することにより，児童に言葉を使用する有用性を感じさせられるような場面・目的・状況の設定をすることができた。
 - ICT 機器の使用目的を明確にした授業研究の実施により，デジタルの良さとアナログの良さを再認識することができた。ICT 機器の使用自体が目的とならない，より効果的な活用について考え合う研修ができた。
-
- 全体の 10～15%程度の児童は，表現力に課題がある。ICT 機器の活用によって表現力を高めることにつながったが，引き続き個別の支援が必要である。
 - 6 年間全体を見通した系統的な指導環境を整えていく必要がある。特に基本的な話し方や書き方，説明の仕方については，共通の学校掲示を作る等して，今後も指導をしていく必要がある。
 - 1 人 1 台端末の整備が進んでいるが，オンライン環境の整備にはまだ時間がかかる。引き続き「STUDY NOTE」を活用した研修をする等，オンライン環境に左右されない，ICT 機器の個別利用について，実践を積み重ねていく必要がある。
 - 本年度は実施されなかった「B5 家庭学習」や「C2 協働での意見整理」については，高学年を中心に実践の可能性を模索したい。

おわりに

本校は、今年度、研究主題を「主体的に学び、進んで表現する児童の育成～ICT 機器を活用した対話的な学びの創造～」とし、昨年度までの「主体性」に係る研究に「表現力」を加え、児童が主体的に考え、進んで表現し、対話的に学ぶ授業が創造できるよう授業研究を積み重ねてまいりました。

検証の視点を明確にし、ICT 機器の有効活用を図りながら、児童が各教科等の資質・能力を身に付けることができるよう授業改善をしていきましたが、基本的な話し方や書き方、説明の仕方について、系統的な指導環境を整えたり、オンライン環境を整備したりする必要があるなど、まだまだ課題が残っています。

今後も、主体的に学び、進んで表現していく児童の育成を目指し、教育活動全体を見通した中で ICT 機器を有効的に活用しながら、単元開発及び授業改善を推進してまいります。

終わりにになりましたが、研究推進にあたりまして、これまで熱心にご指導してくださった先生方、そして、本校の教育活動に多大なご支援をいただきました皆様に心から感謝申し上げます。今後ともより一層のご指導、ご助言をいただきますようお願い申し上げます。

教頭 中川 隆

ご指導いただいた先生方

東広島市教育委員会学校教育部指導課	指導主事	山 藤 暁 子	先生
東広島市教育委員会学校教育部指導課	指導主事	西 岡 秀 純	先生

研 究 同 人

〈令和2年度〉

倉田 恵里	中川 隆	大歳美恵子	中田 美咲	清水 悦子	三浦久美子
柿本 悠	酒井 優広	友井 啓之	半川 碧	山内 伸介	田村 裕子
石倉 明子	上杉 真美	山崎 紀子	瀧本 耕平	寺田 幸江	村田 寿美
小池 周	上里 祐二	猪野 円	住吉谷由紀	西條 香織	西原 正彦
寺田 晶子	片山 信幸	英賀谷祐子	藤本 直美	宮原 佳世	才崎 麻紀
片平 美帆	古石 朝子	蔵迫 優子	Mojugan Yoshimura	Hannah Mead	